

宮城県南三陸町ボランティアレポート

- ◎氏名 由井 誠
- ◎活動期間 2011年(平成23年)12月18日(日)～22日(木)
- ◎活動内容 社会貢献共同体ユナイテッド・アースの南三陸町復興応援プロジェクトに参加。その中のコミュニティサポート班で活動、仮設住宅にある集会所でのお手伝い、支援物資の配布、イベント開催のチラシ配布等の活動を行いました。
南三陸町復興応援プロジェクト <http://united-earth.jp/minamisanriku/>

◎5日間の内容

4泊5日の短い期間で、特に何をやったということもなかったのですが、とにかく現地に足を踏み入れたということで、南三陸町へ行った、被災地へ行ったということが、私にとってとても意義深いものとなりました。

18日(日)は朝早く和歌山を出て、新幹線を乗り継いで仙台まで行き、バスに乗り換えて近くの久米市まで行きました。さらにそこから南三陸町までは日本赤十字社が運行している無料バスがあり、それに乗って16時頃、目的の「入谷中の町」のバス停に着きました。何も知らないところなので、青いビブスのお兄さんが2人(ボランティア仲間)出迎えてくれたのはとてもうれしかったし、しかも僕の落とした携帯電話を取りに登米市まで引き返してくれました。拠点であるユナイテッド・アース南三陸町事務所に着いてからも、ボランティア仲間が温かく迎え入れてくれて本当に心強かったです。ただ、年齢が20代・30代の若者中心なので、輪の中にすっと入りづらかったのは確かです。

19日(月)は、志津川中学校のグラウンドに建てられている仮設住宅の集会所に朝から行きました。中学校は授業はもちろん行っていますが、ちょうどそのときその学校の特別支援学級の生徒の歌声コンサートが集会所で10:30からあるということで、その開催を仮設住宅を回って呼びかけ、その後コンサートのお手伝いもしました。生徒は8人くらいで、5曲ほどカラオケテープで歌い、中には1人で歌ったり、2人で歌ったりする生徒もあったので、すごいなあと思いました。来てくれた人は30名くらいで、生徒の歌声に手拍子をしながらかきいってました。午後からは支援物資として送られてきた湯たんぽを仮設住宅各家庭に1つずつ配りました。私なんかは、この日初めて行ったにもかかわらず、仮設住宅の人たちは、「いつもすみませんねえ。ご苦労さんやなあ。」と誰からも好意的に言ってくれて、とてもうれしかったです。これは震災から今日までこの南三陸町で活動してきたユナイテッド・アースの取り組みがこういう絆をつくっているんだなと思いました。そしてこのことは、この日の夜に事務所で行われたボランティアのガイダンスの中で聞いたユナイテッド・アースの活動が南三陸町で評価されているということに結びつきました。15時頃からは、今度は場所を移し、志津川小学校のグラウンドに建ててある仮設住宅の集会所に行き、プレスタなるもののお手伝いをしました。プレスタとは、プレイング&スタディの略で仮設住宅に住む小学生が放課後に遊べるところがないということで、集会所を開放し、そこで宿題をやったり、遊んだり、本を読んだりすることのお手伝いをするということです。この日は小学3年生～5年生の男の子3人、女の子2人が来ていました。声かけなどもするのですが私の方はあまりなじめず、最後の方でみんな一緒にすごろくで遊びました。ボランティアの拠点に戻ったのが18時頃でした。

20日(火)は、24日(土)にベイサイドアリーナという大きなホールで行われるクリスマスイベントのチラシを3カ所の仮設住宅のポストへ入れる(ポスティング)ことを朝からはじめ、それが終わった後、少し時間があつたので、ボランティアの先輩に被災のあった海岸付近、70cm以上地盤沈下しているところに連れていってもらいました。満潮になると海水が道路まで入り込んで水浸しになるそうです。堤防近くの建物は津波の凄さを物語っているようでとてつもない力で破壊された様子が表れていました。午後からは昨日行った志津川中の集会所に行き、同じようにその仮設住宅にチラシのポスティングといろいろとお手伝いをさせていただきました。15時頃からは今度は志津川高校のグラウンドに建ててある仮設住宅の集会所に行きました。そこでもプレスタのお手伝いをするのですが、まず初めに

小学生をバスの停まるところまで迎えに行くのです。小学生や中学生が学校から自分の家や仮設住宅に帰る、または登校するときに、まだ町の中は瓦礫や泥もあり、きれいに整地されていないので、とても危険であるということで、大型バスを出して送り迎えをするというシステムをつくっているのです。バスはいくつかの地点で停車し、そこから子どもたちは家や仮設住宅に帰ったりします。そのバスの停留所が志津川高校(高校は高台にある)の下にある被災された老人ホームの前にあり、この仮設住宅の小学生はそこで降りるのです。私のプレスタのお手伝いはそこに小学生を迎えに行くことから始まりました。特に1・2年生の女の子を中心にいつも集会所にやってくる子どもたちを迎え、仮設住宅まで送り、そして子どもたちは集会所にやってきます。この日は男の子2人と、女の子5人がやって来て、宿題のある子は先に宿題をやり、カードゲームをしたり、ホワイトボードに絵を描いたりしてました。そして最後に残った女の子4人とボランティアの2人で風船ドッチボールや花いちもんめをやって楽しい時間を過ごしました。初めてそこに行ったにもかかわらず、小学生が相手をしてくれて私の方でも何だかうれしかったです。18時頃まで集会所で遊び、子どもたちを仮設住宅まで送って、その日は終わりました。

21日(水)は、7:20頃拠点を出て、昨日行った志津川高校の仮設住宅に行き、小学生を昨日迎えたバスの停留所まで送っていきました。毎朝この活動も行っているようです。こんなユナイテッド・アースの地道な活動が集会所の子どもたちとの絆を強めているということに改めて感じさせられました。見送った後拠点に戻り、昨日同様、朝からチラシのポスティング。ただ、内陸の方の奥まで行ったので、こんな遠いところまで仮設住宅があるんだということも実感し、どこの仮設住宅に誰が入るのかということを決めるのも苦労したんだろうなとも思いました。その後、今日も少し時間があつたので、ボランティアの先輩に、被災された防災庁舎(津波が来る最後の最後まで防災無線で避難を呼びかけていたところ)、志津川駅(線路も何もかも流されて残ったのはプラットフォームだけ)、志津川病院(5階建てでその屋上ぎりぎりまで津波がきて、2階のベランダにはまだ流されてきた船が乗っかっている)、サンポートというスーパーマーケット(中にはまだ瓦礫や商品のつぶれたものがたくさん残っており津波に襲われた後も手つかずの状態、1階には損傷の激しい車が3台ほどあつた)に連れていってもらい、津波の激しさを改めて感じさせられました。午後からはまた志津川中の集会所に行き、集会所周辺が舗装されるので、そのために以前から建ててあつたテントの撤去の手伝い等をしました。いつもこの集会所で中心になって動いてくれている鈴木さん(多分自治会長さんかな?)が、思わずこぼした「早く家に帰ってえ。」の言葉がとても印象的で、本当に今の気持ちを表しているんだなと思いました。その時も私の方からは声をかけることができず、何か一言でも話しをしたらよかつたかなと今更ながら思いました。本当は仮設の人をはじめ現地の人と震災が起きてから今までのことについていろいろな話をして、学びたかつたのですが、どこまで踏み込んでいいのかもわからず、こちらからは積極的に話しかけに行くことができませんでした。でも話しはできなくても現地の人たちの表情や時々ベテランボランティアさんと話しをしている様子を見ることができて私としては本当に来てよかつたと思えました。夕方からは昨日と同じく志津川高の集会所に行って、プレスタの手伝いをしてきました。昨日よりも人数は少なかつたのですが、一緒に宿題したり遊んだりしました。この日は夕方から特に雪が多く降り出してみるみるうちに積もってきました。集会所から子どもたちが帰る頃には雪がたくさんあつて、子どもたちはうれしそうでした。

22日(木)の帰る日は、帰り支度をして、昨日と同じく志津川高の仮設の小学生の見送りに行きました。そのとき、プレスタに来ているある女の子が「今日来てよ」と言ってくれたので、思わず「行くよ」と言って手を振りました。少しでも繋がったことのうれしさと申し訳ないと思う気持ちが出てきて複雑でした。でも改めて「来てよかつたな」と思いました。その後、ボランティアの先輩に隣の登米市まで行くバスに乗るために停留所まで送ってもらい、ボランティア仲間とお別れしました。その時に、「帰ったらこの三陸町のことを一人でも多く伝えてくださいね」と言われたので、「そうします。この5日間私としては何も出来なかつたけれど、来ただけでもよかつたです。南三陸町のこと忘れないうちにも、東日本大震災のこと忘れないうちにも、伝えていきたいと思えます。お世話になりました。ありがとうございました」と言って、南三陸町を後にしました。